

「読解」の授業

学級ライブ I

2025 夏 学級づくりセミナー (2025.8.16)

「使える知識」を蓄える

暗記で覚える

知識(ことば)の意味や働き、使い方を考えない

知識が動かせない

死んだ知識になる

記録に残らない

思考・経験で覚える

知識(ことば)の意味や働き、使い方が修正・変化する

知識を動かせる

生きた知識になる

思考をコントロールできる

どれだけ
この経験を
積むか

読解の授業 理論

01



「読解」のイメージ



表面的な理解
(浅い読み)

言葉や文を、
「こんな感じバイアス」
を通して読む

一人で行える

一人では難しい

言葉や文を、
「変な感じバイアス」
を通して読む

本質的な理解
(深い読み)

豊かなイメージ・価値・真理・美



「こんな感じバイアス」



例1

その明くる日も、ごんは、くりを持って……。

「兵十」と「加助」の話を聞き、「引き合わないなあ」と思った「ごん」が、その明くる日も「兵十」のうちへ出かけている。自分の行為とは気づいてもらえない悲しさや寂しさがある中で、それでも独りぼっちの「兵十」に共感し、寄り添っていることや、自分のしたいはずらに対する後悔の深さが、「ごん」の行動から伝わってくる。

学習指導書より

「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。

「おれがくりや松たけを持っていつてやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」

6

その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置で縄をなっていました。それで、ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました。そのとき兵十は、ふと顔を上げました。と、きつねがうちの中へ入ったではありませんか。こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来

『ごんぎつね』より



「こんな感じバイアス」



例2

「ゆみ。……一つだけのお花、大事にするんだよう——。」

父から娘へ、万感の思いが込められた言葉である。花に託された「お父さん」の願いをしっかりと読み取らせたい。

ゆみ子は……。お父さんは、それを見てにつこりわらうと、何も言わずに……。一つの花を見つめながら——。

食べ物をねだって泣いていた「ゆみ子」が、食べられないけれど美しい花をもらって喜んだ。戦争によってねじ曲げられ、貧しい心のまま成長してしまうのではと心配していた「お父さん」は、「ゆみ子」の心の中に美しいものを尊ぶ人間らしい豊かさがあったのを知って、安心することができたであろう。一方で、幼い「ゆみ子」を残して戦争に行く「お父さん」の切ない気持ちも読み取らせたい。

学習指導書より

んが、ぶいといなくなっていました。

お父さんは、プラットホームのはしっぽの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていたコスモスの花を見つけたのです。あわてて帰ってきたお父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。

「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよう——。」

ゆみ子は、お父さんに花をもらうと、キャツキャツと足をばたつかせてよろこびました。

お父さんは、それを見てにつこりわらうと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら——。

10

『一つの花』より





「こんな感じバイアス」



例3

できる。ここで注意したいのは、「大造じいさん」の言う「ひきょうなやり方」を、「1」から「3」の計略と考える児童がいるかもしれないということである。その際には、「1」の「りょうじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした」という叙述を取り上げ、その「残雪」に対して、「1」から「3」で「大造じいさん」がとった計略は「ひきょう」なものではないこと、「また堂々と」という言葉から、「大造じいさん」が自分のとった計略は「堂々と」したものであったと感じていることを確認させたい。

学習指導書より

『大造じいさんとガン』より

じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました。
残雪は、あの長い首をかたおけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようでありました。が、
バシッ。

快い羽音一番、一直線に空へ飛び上がりました。

らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、ガンの英雄^{ゆうゆう}よ。おまえみたい^(えらいやつ)なえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやつつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」

大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去って、いくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。



「こんな感じバイアス」



例4

体を動かすためには、エネルギーが必要です。私たちは、エネルギーを得るために、食べものを食べます。食べものは消化された後、養分として体の中に吸収されます。養分や、呼吸によってとり入れられた酸素は、血液を通して全身の細胞に運ばれます。細胞では、酸素を使って養分からエネルギーがとり出されます。このエネルギーを使って、私たちは活動を行うことができます。



読解の過程



一人では難しい。友だち・学級の力が必要

当たり前のよ
うに読んでし
まう

読みの違いを、
問題として意
識できない

言葉の意味や
ニュアンスを
適用できない

リアルな
映像として
見たような感動

「いい話だ」
で終わり

「こんな感じ
バイアス」を
通した読み

違和感・
謎をもつ

問題をもつ

解決する

深い読み

「変な感じバイアス」を通した読み

一人のできる

一人のできる

一人のできる

一人のできる

友だちの力を借りながら、
学習過程を積み重ねること
で、少しずつ「一人のできる
力」（個人の学習能力）
を高めていくことが可能と
なる。
それが協働学習の価値。



夏のくらし

はなび

つるみ まさお
鶴見 正夫

ひのはな

さけさけ

なつのよるのにわに

さいてちって

ちってきえて

きえてもまだのこる

とじためのなかに

ふしぎなひのはな

いまさいたはなび

すだれ

うち上げ花火

うちわ

かとりせんこう



生活の中で、夏らしさを感じることはあります。みの回りで見つけた、夏を感じたものについて書きましょう。

今日はとてもあつかったので、夕方におばあちゃんといっしょにうち水をしました。家のにわに水をまくと、すずしくなったように感じました。おばあちゃんが子どものころも、うち水をしていたそうです。

● あつい夏をのり切るためのくふうです。

ふうりん

あみ戸

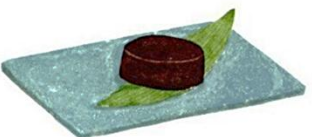
せんぶうき



● 夏には、つめたくて、のどごしのよいものがよく食べられます。

水ようかん

みつまめ



そうめん

白玉



ところてん



・白玉



「変な感じバイアス」 の必要性



「すぐれた小説家は、**最も大切な宝物**をみすみす見えるところに置いたりしない、隠すのだ」「小説家はどうやって宝物を埋め込むのだろうか。その一つの方法は、肝心な事柄を省略して書かないことである。」「言葉の隙間こそが重要な働きをしている」「小説の重点は因果関係(プロット)に置かれており、『なぜか』という問いを満足させるために書かれたもの」

(石原千秋 『未来形の読書術』)

「とにかく、大切なのは、立ち止まって、『どうして?』と考えることだ」「会話の中で、聴く気のない相手に対して、人が『この人に話しかけてもしかたない』とそっぽを向いてしまうように、『なぜ?』という疑問を持たない人には、本は永遠に口を閉ざしてしまうだろう」

(平野啓一郎 『本の読み方 スローリーディングの実践』)



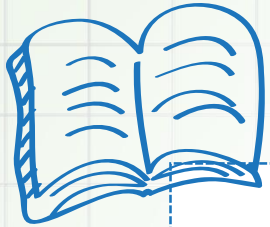
わざわざ隠された宝物は、
「こんな感じバイアス」では、
見つけられない。

わざわざ隠された宝物は、
「変な感じバイアス」を通してこそ、
見つけられる。

⇒ **授業の価値**



変な感じバイアス



01

こんなことはやる
(言う)はずがない、
という感じ

02

このような展開は
あり得ない、という
感じ

03

このような言葉を使
わなくてもいいのに、
わざわざ使っている
という感じ

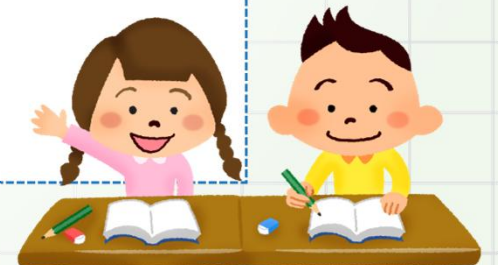
04

このような書き方
(文)をしなくてもい
いのに、わざわざ書
いているという感じ

05

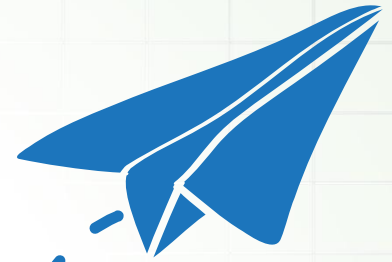
このように書けばい
い(言葉・文)のに、
わざわざ書いてい
ないという感じ

「こんな感じバイアス」
からの
脱却をめざす！



読解の授業 演習 (授業ライブ)

02





目的（6つの経験）



1

個々の学びと他者
との学びの大切さ

2

考えの違いがある
ことの面白さと楽
しさ

3

「変な感じバイア
ス」の効力

4

言葉の意味や使い
方などの威力

5

追求の授業の手順

6

教材の深さと価値



あの坂をのぼれば

——あの坂をのぼれば、
海が見える。
少年はもう一度、
力をこめてつづやく。

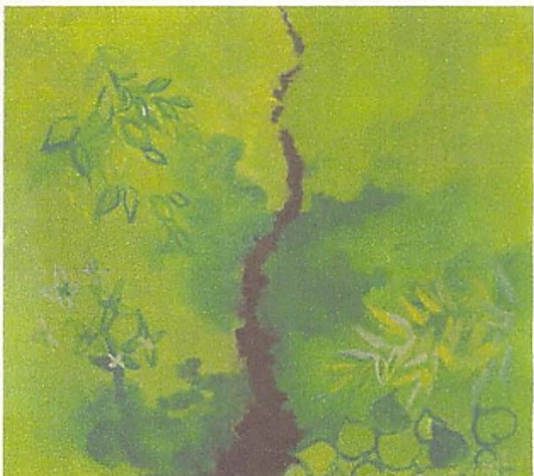


「ひろがる言葉」小学国語6上
(教育出版) より

あの坂をのぼれば

- ① ———あの坂をのぼれば、海が見える。
- ② 少年は、朝から歩いていった。草いきれがむっと立ちこめる山道である。顔も背筋もあせにまみれ、休まず歩く息づかいがあらいい。
- ③ ———あの坂をのぼれば、海が見える。
- ④ それは、幼いころ、そいねの祖母から、いつも子守歌のように聞かされたことだった。うちの裏の、あの山を一つこえれば、海が見えるんだよ、と。
- ⑤ その、山一つ、という言葉を、少年は正直にその

5



杉みき子 文
かんのひろみ 絵

まま受け止めていたのだが、それはどうやら、しごく大ざっぱな言葉のあやだったらしい。現に、今こうして、とうげを二つ三つとこえても、まだ海は見えてこないのだから。

⑥ それでも少年は、呪文^{じゅん}のように心に唱えて、のぼってゆく。

⑦ —あの坂をのぼれば、海が見える。

⑧ のぼりきるまで、あと数歩。半ばかけだすようにして、少年はそのいただきに立つ。しかし、見下ろす行く手は、またも波のように、下つてのぼって、その先の見えない、長い長い山道だった。

⑨ 少年は、がくがくする足をふみしめて、もう一度氣力を奮い起こす。

⑩ —あの坂をのぼれば、海が見える。

⑪ 少年は、今、どうしても海を見たいのだった。細かくいえばきりもないが、やりたくてやれないことの数々の重荷が背に積もり積もった時、少年は、磁石が北をさすように、まっすぐに海を思ったのである。自分の足で、海を見てこよう。山一つこえたら、本当に海があるのを確かめてこよう、と。

⑫ —あの坂をのぼれば、海が見える。

⑬ しかし、まだ海は見えなかった。はうようにしてのぼってきたこの坂の行く手も、やはり今までと同じ、果てしない上り下りのくり返しだったのである。

⑭ もう、やめよう。

⑮ 急に、道ばたにすわりこんで、少年はうめくようにそう思った。こんなにつらい思いをして、坂をのぼったり下りたりして、いったいなんの得があるのか。この先、山をいくつこえたところで、本当に海へ出られるのかどうか、わかったものじゃない……。

⑯ 額にじみ出るあせをそのままに、草の上にすわって、通りぬける山風にふかれていると、なにもかも、どうでもよくなってくる。じわじわと、疲労^ひがむねにつき上げてきた。



①⑦ 日はしだいに高くなる。これから帰る道のりの長さを思って、重いため息をつい

た時、少年はふと、生き物の声を耳にしたと思った。

①⑧ 声は、上から来る。ふりあおぐと、すぐ頭上を、光が走った。つばさの長い、真っ白い大きな鳥が一羽、ゆつくりと羽ばたいて、先導するように次のとうげをこえてゆく。

①⑨ — あれは、海鳥だ！

②⑩ 少年はとっさに立ち上がった。

②⑪ 海鳥がいる。海が近いのにちがいない。そういえば、

あの坂の上の空の色は、確かに海へと続くあざぎ色だ。

②⑫ 今度こそ、海に着けるのか。

②⑬ それでも、ややためらって、行く手を見はるかす少年の目の前を、ちょうのようにひらひらと、白い物がまい落ちる。てのひらをすばめて受け止めると、それは、雪のようなひとひらの羽毛うもだった。

②⑭ — あの鳥の、おくり物だ。



②⑮ ただ一ぺんの羽根だけれど、それはたちまち少年の心に、

白い大きなつばさとなって羽ばたいた。

②⑯ — あの坂をのぼれば、海が見える。

②⑰ 少年はもう一度、力をこめてつぶやく。

②⑱ しかし、そうでなくともよかった。今はたとえ、この後
三つの坂、四つの坂をこえることになろうとも、必ず海に
行き着くことができる、行き着いてみせる。



②⑲ 白い小さな羽根をてのひらにしっかりとくるんで、ゆつくりと坂をのぼってゆく少年の耳に——あるいは心のおくにか——かすかなしおぎいのひびきが聞こえ始めていた。



「こんな感じバイアス」

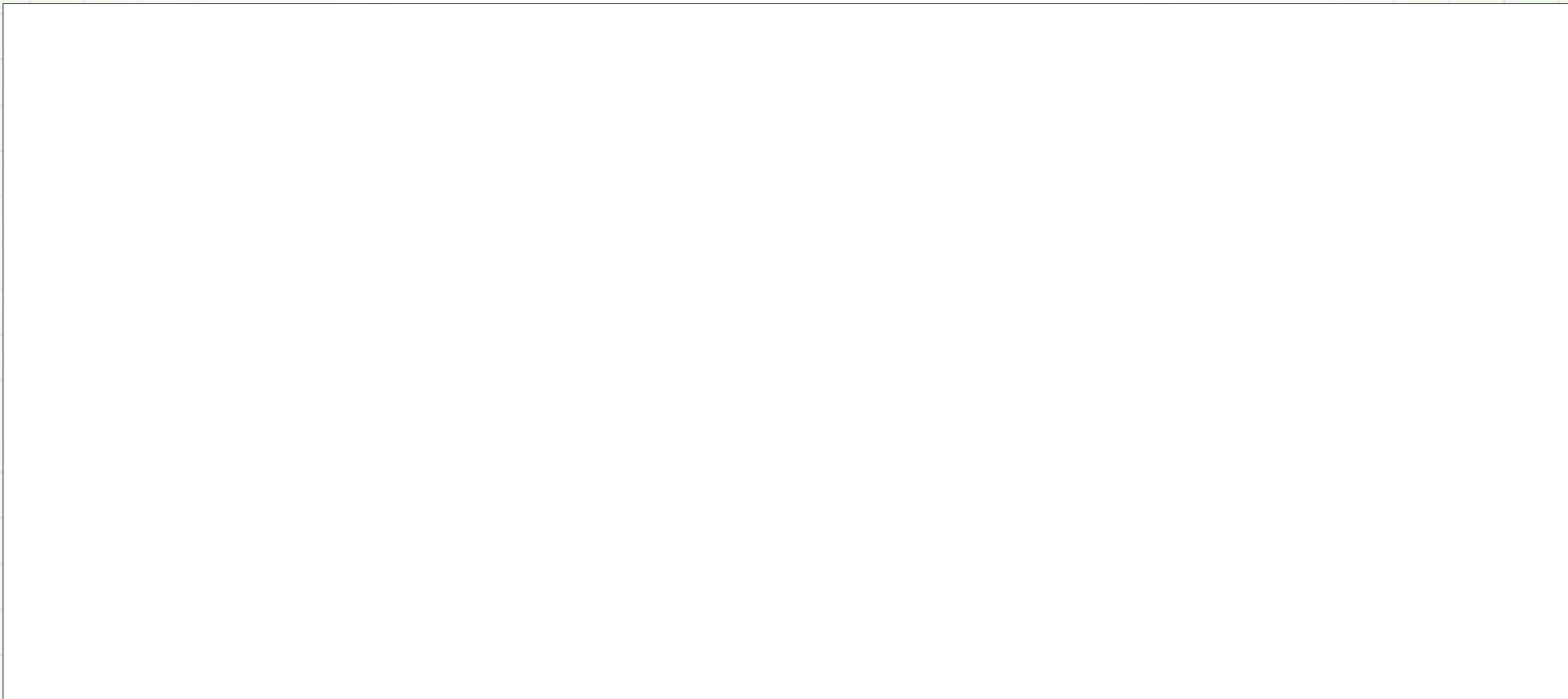


で読むと…





「変な感じバイアス」 で読むと…



まとめ 言葉のモデル

子どもの言葉が育つ条件

〈乳幼児期〉 1 乳児期からたくさんの豊かな言葉を周囲の人からかけられること（聞くこと）

2 周囲の人の言葉をまねて発すること

モデル = 大人・保育者



〈児童期〉

モデル = 大人・教師・教科書

教科書教材をモデルとして…

言葉の意味・働き・使い方・言葉の関係性・言葉の選択・
文章の明快さ・文章構成の面白さ・表現の工夫
言葉の価値・言葉のもつ力・言葉と文が宿す美

などに触れることを繰り返す。そのための授業を積み重ねる。

⇒ 言葉の力を育てる ⇒ 人を育てる

これらの発見は、
集団でこそ
高まる！

